注目!!
わが社の
家づくり

No.187

地域の気候風土、文化・伝統に素直な家づくり
価格以上に価値のある住まい

穐谷 勝浩 代表取締役

株式会社穐谷建築事務所

〒940-0026　新潟県長岡市石内2丁目5-15
TEL0258-86-5212　FAX0258-86-5213
http://www.akiya-a.co.jp/

日本三大花火大会にも数えられる長岡市。この地で“長岡らしい家”づくりを追求しているのが穐谷建築事務所だ。木を表しで使い「気候風土や文化・伝統に素直につくりたい」と語る穐谷社長が目指す家づくりとは。

—創立７年目ということですが、穐谷建築事務所の概要から教えてください。

穐谷　穐谷建築事務所は平成20年５月に創業しました。RC造や鉄骨造、土木などを手がける地元の総合建設会社に５年間勤めた後、大手ハウスメーカーに20年間在籍し、独立しました。

もっと“木造らしい家”を、手ごろな価格で手がけたいというのが自分で会社を立ち上げた一番の理由です。私は30年以上家づくりに携わってきましたが、今、“新潟らしい家”さらには“長岡らしい家”をつくっていきたいと強く思っています。

弊社では、年間で新築の注文住宅を3～4棟程度、加えてリフォーム等を年間50件以上施工しています。

増改築はもとより、断熱・耐震・内装等の改修、水廻り・冷暖房等の設備・配管工事、屋根・外壁等の塗装や張替え、ジーポートなどのエクステリア工事、メンテナンスや相談アドバイスを木造住宅をメインにマンション・RC造・S造・店舗・医院など多岐に渡り行っています。医者で言えば総合診療医です。

注文住宅も・リフォームもほぼ100％紹介を頂いていることが本当にありがたいと思っています。

—“らしい家”とは、具体的にはどのようなイメージでしょうか。

穐谷　以前、福島県の温泉に行った時、お風呂で偶然一緒になった方が、「ここら辺の建物はね…」と曲家のお話を始められました。私も「長岡で住宅建築に携わって…」と、ほんの短い間でしたがお話しをさせていただいたのですが、独立したばかりの頃の私に「地域性とは方言と同じくらいにある」との助言を下さいました。「土地の自然や文化を読み解いて方言のようにその表現に変え難いデザイン」と話されたのです。

そうした言葉が非常に強く印象に残りました。その方が、あの三井所先生（三井所清典氏、日本建築士会連合会会長）だとわかったのは、家に帰ってからでしたけれど（笑）。

ですから、私にとって“らしい家”とは「方言のような家」のことなのです。ディテールでいえば質素で雪に強いといったことになりますが、この地域の気候風土、文化・伝統に対して、素直につくっていきたいと思っています。

軒・庇がなく雨が降ったら窓も開けられない、外壁が傷み、夏の強い日差しがどんどんと入るなど全国画一的でローコストをモダンと呼ぶような自然に逆らうような見せかけのデザインでなく、普通で簡素、単純で、だんだんと美しく味わいの増してくるような佇（たたず）まいのよい家を目指したい。たとえば軒の出の深い勾配屋根の形は日本建築の中で一番美しいもののひとつです。

もちろん、そうした私の思いと、お客様のニーズがつながる時もありますし、つながらない部分もあります。そこが難しいですね。

—“木造らしい家”とは？

穐谷　できるだけ柱・梁など構造体を表しで見せたい。木目もデザインの一部となり木はあるだけで心地いい素材であり、その愛着は

“長岡らしい家”を追求する穐谷建築事務所の家。穐谷社長は県内で初といわれるスマートハウスを自宅として建築してもいる。

人類すべてに共通です。よく考え抜かれた構造はそれ自体が装飾となり、年月がたつごとに色合いや風格が出てきます。それが大工技術の伝承になり日本文化を支えているくらいの気概を持ちたいのです。

奥様がシステムキッチンにこだわるように素敵に木をデザインして、高品質で妥協のない木の家を若い人たちが建てられる手ごろな価格で作りたい。

―住宅の仕様について教えてください。

穐谷　耐震性は性能表示の等級2がベースです。地域型住宅ブランド化事業で長期優良住宅に取り組んでいますが、我々のグループでは、すべて許容応力度計算をし、耐震性を担保しています。

また、長岡は冬は寒く雪も多い地域ですから、省エネ性は認定低炭素住宅レベルを標準と考えています。技術的には難しくありませんし、コストもそれほどかかりませんから、お客様の予算内でご提案できます。

断熱材については、壁は高性能グラスウール16kgを105㎜、床は押出し発泡ポリスチレンを60㎜もしくは基礎断熱、屋根はグラスウールやポリスチレンなどを屋根裏の形状に応じて使い分けています。

加えて樹脂サッシを標準採用し、APW330を使っています。4月に吉田会長のお話しを聞いてその理念に触発され、先日は世界トップクラスの断熱性能を持つAPW430も試してみました。今後、費用対性能向上の高いAPW430を使っていきたいと考えています。

もっとレベルの高いゼロ・エネ住宅などにも取り組みたいと思ってはいますが、コスト面が問題ですね。住宅に対する価値観は人それぞれですから。

―「手ごろな価格で」と話されましたが、穐谷社長にとって“安い”とはどのような意味ですか。

穐谷　私としては、30年、40年経った時に「安いな」と思っていただければ幸せです。例えば、壁には必ず構造用合板を張りますが、これは強度や気密などを総合的に勘案して採用しています。見えない部分ですが断熱性や気密性が上がり、結果的に光熱費を下げることができます。

また、床材は基本的に無垢材を使いたいと思っています。コストは高くなりますが、長年使った時の補修を考えれば、結果的に安くなります。また、床材が空間に与える影響は非常に大きい。まがい物だとやはり存在感が違うのです。コスト以上に価値を生むと思っています。

―穐谷社長の夢は何ですか？

穐谷　仲間を集めて「あいつらのやっている家づくりっていいな」と言われるような活動をしたいですね。

実は、三井所先生からは「地域で仲間をつくって切磋琢磨しなさい。これからはそういう時代が来る」とも言われました。

若い経営者や職人さん、設計事務所を巻き込んで総合的なチームを作り、本当に地域に密着した活動をしていきたいと考えています。

地域型住宅ブランド化事業のグループでの活動もしていますが、南北200㎞と離れた方がいるなど範囲が広すぎます。できれば長岡市の中でも、すぐに集まれる範囲内で仲間を作りたい。「長岡の街並がきれいになったね」と言われるような取り組み、地域貢献をしていきたいですね。